



宇都宮市上横田町からの日出

目 次

P2 新年あいさつ 《特 集》	県支部長 黒須 重富
P3 栃木県支部創立10周年記念行事の報告	
1. 創立10周年記念式典	県支部幹事 小川 正順
2. 栃木県支部10周年記念講演会	県支部幹事 宮下 治
3. 創立10周年記念誌の発刊	県支部幹事 西谷 元則
《投 稿》	
P5 上下水道コンサル若手技術者交流会の開催 【一 息】	県支部協賛団体 3社
P8 広報委員長のよもやま話	県支部広報委員会
《活動報告》	
P8 令和4年度 統括本部電気電子部会と栃木県支部協賛 芳賀・宇都宮 LRT 見学会	県支部幹事 金澤 正和
P10 令和4年度 栃木県支部 11月期 CPD 研修会	県支部会員 天野 貞昭
P11 令和4年度 栃木県支部 12月期 CPD 研修会	県支部幹事 谷口 雅昭
P11 令和4年度 栃木県支部 12月期 CPD 交流会	県支部幹事 宮下 治
P12 協賛団体紹介	
P12 編集後記	県支部広報委員長 西谷 元則

新年あいさつ

栃木県支部支部長 黒須 富重

あけましておめでとうございます。今年が、会員の皆様及び支部にとって、輝かしい年となるよう努めて参ります。新しい年を迎えるにあたり、昨年を振り返ってみます。昨年は次の三つの取り組みをいたしました。



その1：支部創立 10周年記念式典の開催と 10周年記念誌の発刊

昨年は、福田県知事をはじめ多数のご来賓の皆様にご出席いただき、県支部創立 10周年記念式典を 10月 15日に開催しました。式典では永年支部運営にご支援を賜った協賛団体 13社に感謝状を贈呈いたしました。また、式典の開催に併せて、10年間の支部活動実績をまとめた「支部創立 10周年記念誌」を発刊し、支部会員の皆様にお送りしました。式典の開催と記念誌の発刊ができましたことは、会員と協賛団体の皆様のご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

その2：Web 配信による CPD 講演会の増加

技術士更新制度の改革にともない CPD 研修の重要性が高まっています。対面方式は人数制限があるため、Web 方式併用が多くなりました。例えば、年次大会講演会（県産業労働観光部長：辻真夫氏）、支部創立 10周年記念講演会（宇都宮大学学長：池田宰氏）、11月講演会（茨城県支部環境・防災支援 P リーダー：手島久氏）、12月講演会（とちぎ建設技術センター理事長：田城均氏などで採用しました。今年も Web 配信を併用して、CPD 研修を充実させたいと思います。

また、昨年は、新しい試みとして本部電気・電子部会や茨城県支部と合同の見学会が開催されました。こうした本部部会や他県支部との合同研修会、見学会の開催にも挑戦したいと思えます。

その3：コロナ禍での支部活動の活発化

コロナ禍で支部活動が制約を受けています。例えば、サイエンスカフェ事業のイベント等が中止され、十分な対外活動ができませんでした。

そうした中、会報 17号、18号を発刊する他、中小企業支援として県が進める戦略 3 産業（自動車・航空宇宙・医療福祉機器）に技術的アドバイスを継続的に行いました。また、防災支援小委員会では、関東甲信県支部防災連絡会議や第 18 回全国防災連絡会議に Web 参加する他、国際委員会では浙江省科技交流人材センターと Web による交流会を行いました。今後も Web 活用により、支部活動を広範囲に展開したいと思っています。

今年も会員の皆様の期待に応えられるよう努力して参りますので、ご支援を賜りますようお願いいたします。



《特 集》

栃木県支部創立10周年記念行事の報告

1. 創立10周年記念式典

栃木県支部幹事 小川 正順

栃木県支部創立10周年式典を10月15日(土)、宇都宮市内のニューみくらで開催し、福田富一知事を始め来賓や支部会員ら60人が出席し節目を祝った。式典ではこれまでの活動に思いをはせるとともに、さらなる科学技術の向上や地域経済発展にまい進していくことを誓った。

福田副支部長の司会で進行し、最初に黒須支部長が「科学技術向上により、地域経済発展や国際交流に貢献することを活動理念として創立し、活動してきた10年間の積み重ねを基に、科学技術の向上や地域経済発展のパートナーとして自己研鑽に励み、積極的に活動していきたい」とあいさつし、今後も関係者には変わらぬ支援と協力を求めた。

次いで来賓の福田知事が「県の産業振興に多大な貢献をいただき、きたことを感謝する。今後も豊かであり続けるためにも、技術を磨くことが必要だ。来年度には職業人材育成力レッジを立ち上げる。学びたい技術、特許技術など様々な分野で最新の技術を習得し、技術力のすそ野を広げていきたい」とあいさつされた。

その後日本技術士会の寺井和弘会長からの祝辞を小川副支部長が代読した。

来賓紹介のあと、多年にわたり協賛を続けた協賛団体に感謝状を贈呈した。受贈者を代表して富貴沢建設コンサルタンツ代表取締役社長の見目正明氏が「今後も県支部を全力で応援していく」と謝辞を述べられた。

最後に西谷副支部長が、10年の歩みをパワーポイントで紹介し、式典を閉式した。

【感謝状受領者】

▽宇都宮測量(株)(佐藤達男代表取締役)、▽晃洋設計測量(株)(蓼沼恒男代表取締役)、▽(株)真和技研(杉山俊介代表取締役)、▽(株)ダイミック(山本修一代表取締役)、▽(株)中央土木研究所(笠原武夫代表取締役)、▽東亜サーバイ(株)(田崎瑞穂代表取締役)、▽東洋測量設計(株)(戸部康彦代表取締役社長)、▽(株)栃木県用地補償コンサルタント(本橋義也代表取締役)、▽日研測量(株)(大島薫代表取締役)、▽日昌測量設計(株)関昌也代表取締役、▽(株)ピーシーレールウェイコンサルタント(荘司和彦代表取締役)、▽(株)富貴沢建設コンサルタンツ(見目正明代表取締役社長)、▽(株)水環境プランニング(西谷元則代表取締役)



写真-1 黒須支部長 挨拶



写真-2 福田富一知事



写真-3 感謝状受領者



写真-4 県支部役員

2. 栃木県支部 10周年記念講演会

栃木県支部幹事 宮下 治

日時：令和 4 年 10 月 15 日(土)15～16 時

場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室

講師と演題：宇都宮大学長 池田宰氏、「共創と複眼～技術と地域貢献」

参加者：59 名（内：技術士、会場受講 30 名、Web 受講 6 名）

講演概要：

コロナ感染症対策として会場参加の人数を制限して、Web 配信を Live で行うハイブリッド方式で実施された。Web 配信を継続することによりリモートによる講演会の質の向上につながることを期待したいと思います。

講演の内容は、「地域貢献」「地方創成」「地域活性化」及び国立大学法人の地域貢献（宇都宮大学の取組み）である。日本技術士会の社会貢献にもふれて頂きました。

日本技術士会の社会貢献は、裁判のための司法支援、災害時の被災を軽減するための防災・減災技術の啓発、工事監査支援や科学技術支援、地域産業の活性化支援などである。

宇都宮大学の教育研究の質の向上に関する目標が、教育、研究より社会との共創が第一義となった。宇都宮大学の理念と方針の第 4 期中期目標に「共創」と「複眼」をスローガンとし、地域とともに学生の未来をつくり、学生とともに地域の未来をつくることとした。「共創」とは、多様な分野領域、そこに関わる人の連携、融合が必要で、双方向でお互いに関わることが必須要素である。「複眼」とは、多様な考え方や手法、視点があることを理解し、受け入れることが必須要素である。

地域の要望に応える取組みの一つとして、2017 年後期より「宇大未来塾」を開始した。この取組みは、リカレント教育で「志士プログラム」「次世代経営マネジメントプログラム」「ニューフロンティアプログラム」で構成されて、将来のニューリーダーのネットワークづくり、若手起業家・創業予定者など現役世代を支援するものである。

技術と地域貢献は、「多彩な多様性に富んだ社会において様々な分野で、柔軟に、積極的に対応し、過去の反省も生かしながら、社会に役立つものを創造し、継続、活用していくことが求められている。」とまとめられた。



写真-1 池田宰講師



写真-2 講演会の様子

3. 創立 10 周年記念誌の発刊

栃木県支部幹事 西谷 元則

平成 24 年の発足した栃木県支部は、今年で 10 年を迎えそのあゆみを記念誌にまとめることになりました。令和 3 年 4 月 10 日の役員会で「栃木県支部創設 10 周年記念誌編纂委員会設置」がされ、10 月の発刊を目指し、スタートしました。私は広報委員長として編纂企画をまとめるリーダー的立場で委員会を運営することになり、10 年間の活動をまとめることに重圧を感じていました。栃木県技術士会の時に 10 周年誌の委員会活動を整理したことがあり、携わっていない時期の活動を把握

するため、資料を探すのに時間を要したことが記憶に残っていました。

体制や担当、スケジュール、目次、様式などを作成し役員に配布することから始まりました。

各委員長に活動をまとめてもらうことにしたが、予想どおり開催日時、参加人数など不明な点が多々ありました。このため、支部行事や各委員会活動の記録は年 2 回発行する会報から整理しました。さらに、月刊誌や活動新聞記事などを整理し、さらに個人活動の募集、一方では予算編成や協賛団体への広告の依頼、印刷業者との打合せなど多くの時間を費やしました。各自の原稿査読は役員全員で行いました。皆様多忙なところ時間をさいいただき、10 回以上の修正の結果印刷までたどり着く事ができました。印刷後、会報のダブリやチェックミスなどに気が付きましたが、10 年間の記録として残せたことが非常に良かったと思います。

これから、更に 10 年、20 年・・・の活動が更に充実して後世に引き継がれることと期待しています。

今回の発行は 300 部、会員 220 部、関連団体 50 部に配布しました。この発行までに苦労した経験を踏まえ、これからの活動は記録を残し、「地域の人と文化と技術の架け橋に」の県支部テーマに合った活動を行って行ければと思います。

最後に、発行にあたりご協力いただいた協賛団体、会員、役員、関連団体、わがままを聞いて頂いた印刷業者の松井ピテオ様に感謝いたしております。今後とも県支部活動にご理解とご協力をお願いしたいと思います。

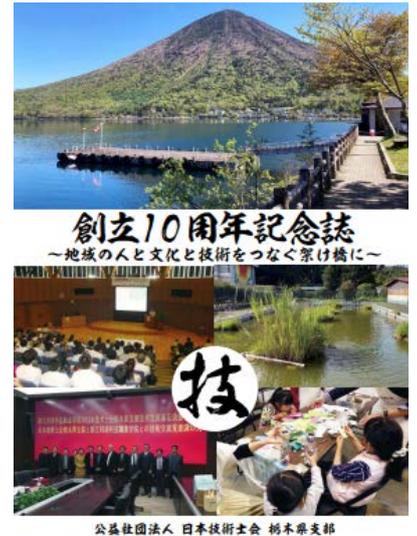


写真-3 創立10周年記念誌

《投 稿》

上下水道コンサル若手技術者交流会の開催

栃木県支部協賛団体 工藤設計、真和技研、水環境プランニング

1.研修会概要

さる、9月15日(木)13:30～17:00に(株)工藤設計3階会議室において、栃木県支部の協賛団体の3社と県内上下水道コンサルタント1社で「若手技術者交流会」を実施しました。目的は栃木県内上下水道コンサルタント会社間の交流及び情報共有とし、若手人材育成や技術力向上など4社共通で取り組む場として開催しました。

参加者：工藤設計3名(協賛団体)

真和技研1名(協賛団体)

水環境プランニング11名(協賛団体)

パスキン工業2名 他各社役員

13:30 開会挨拶：阿久津社長(工藤設計)

13:40 自己紹介タイム

14:10 休憩(5分)

14:15 若手技術者発表(発表15分、質疑応答10分)

大森開斗氏「N市定水位弁更新設計業務事例」(工藤設計)

鈴木啓太氏「実話深い管きょ調査の判定基準」(水環境プランニング)
酒井詩織氏「K市公共下水道雨水管理総合計画策定業務事例報告」
(水環境プランニング)

15:50 ワークショップ /講師：西谷(水環境プランニング)

16:45 評価及び閉会：西谷(水環境プランニング)

2.開会挨拶及び自己紹介

工藤設計(株)の阿久津社長より、今回の開催の経緯の説明と今後の方針について挨拶された。「他社とのコミュニケーション」や「業界での自己成長確認」などの場として活用して欲しいなど述べられた。

引続きプログラムの1つ目「自己紹介」の方法を説明された。

各テーブルの隣の人から聞き取りし、相手を紹介する方法であり、初めて顔を合わせるメンバーもいるため、コミュニケーションを図ることや緊張をとりはらう意味も含めて実施しました。「どのような仕事をしているか?」、「私生活、趣味や休みの過ごし方」などプライベートな面も聞き取りをしていました。時間が足りない感じを受けましたが、お互いを知る切っ掛けになったようです。



写真-1 自己紹介の様子

3.若手技術者発表

上水道事業の事例として入社4年目の大森開斗氏が「N市定水位弁更新設計業務事例」を発表しました。上水道事業に取り組んでいる参加者が少なく、「定水位弁」の存在すら知らない若手技術者もいました。上水道事業を得意としている工藤設計ならではの発表で、潜水土による更新など非常に興味ある内容でありました。

(株)水環境プランニングからは2名の発表があり、2番手は管内の調査事例として「実話深い管きょ調査の判定基準」と題し、鈴木啓太氏が客先に論破された実体験の発表でした。

調査基準には基準書によるものと行政が独自で作った基準の差異があり、さらに観測者の私感が入るので、経験を生かして今後提案していきたいなど前向きな話であった。

最後に「K市公共下水道雨水管理総合計画策定業務事例報告」として酒井沙織氏が入社2年目で、K市の地域特性を勘案した雨水対策目標を設定した事例を紹介した。AHPや浸水被害額算出により重要度を検討し、整備・対策目標、浸水対策実施区域の設定などガイドランにない項目を、独自指標を提案し認められた事例であった。コンサルタントとしての役割が果たせ、設計技術者からコンサルタントになる切っ掛けになればと思っています。



写真-2 技術発表会の様子

4.グループワーク

今回のワークショップの題材は「誰でも納得するライフワークバランス」でグループワークを行った。グループワークはブレインストーミングで進行された。

- ・ 進行役、書記役を各1名選出
- ・ ワークについて整理
- ・ ライフについて整理
- ・ 制約条件の抽出

最後に誰もが納得するワークライフバランスとしてまとめ、進行役が発表する役割であることを伝えた。このためグループ全体が「自覚」、「積極性」や「協調調和」ができ、1つまとまったと感じられました。

さらに、「ワーク」と「ライフ」の比率を議論してもらい「CASEbyCASE」や「ライフに Weight を置く」が見受けられました。高度経済成長期やバブル時代では考えられないと昭和の人間は年代の差を感じた瞬間であった。

5.参加者の感想

- ・ 業務以外の話や仕事以外の話のできたので良かった。
- ・ 他社の若手社員と関わりをもてる機会がとれて良かった。
- ・ 楽しみながら交流は図れたが、力不足を感じた。今後とも交流会等で対話力や説得力、コミュニケーション能力等を鍛えていきたい。
- ・ 他の企業の同世代・年下の方と交流するとは初めてだったので緊張感があった。
- ・ 浄水場の配水池は下水道業務に携わってた技術者には新鮮で、知見や理解を深めることができた。
- ・ 今回の交流会で学んだことを活かし、普段の仕事でも積極的に他者とより円滑なコミュニケーションを図りたいと思う。

6. 評価及び閉会

今回の評価及び閉会の挨拶では、(株)水環境プランニングの西谷社長から若手技術者のコミュニケーションの場として充分評価できる場となり、技術発表の成功例だけでなく今後の成長につながる話が聞けたことは貴重な財産となる。ワークショップでは、Z世代ならではのコメントや思考が発表され、若者熱意を評価した。

今後はコロナ禍で懇親会は別途設けること、ベテラン技術者の技術報告会の実施を開催していきたいと言葉をいただいた。

以上



写真-3 グループワーク発表会



写真-4 グループワークの様子

今後「特集」では、若手社員の紹介や会社の取組などの投稿をお待ちしております。

県支部広報委員長 西谷 元則

広報委員長のよもやま話

—昨年頂いた柿があまりにも美味しく、「また食べたい」と思いをこめて種をまきました。3つの種をまいたうち1つが発芽し、昨年の春に地植えにしました。夏には20センチぐらいに成長しましたが、11月には葉が落ち、「枯れた」とショックを受けました。ふと考えると、これから冬だから季節を感じて葉が落ちたことに気が付き、ホッとしました。このまま無事に冬を越し、春には葉が出ることを楽しみにしています。私の子どもたちも成長し、身近に成長を見る機会が少なく、こんな小さな成長が嬉しくてたまりません。

あと6年で実がなるのを楽しみにしています。人間の成長も柿の成長もワクワクしますね。

県支部創立10周年を迎え、さらなる県支部が成長できるようにご協力頂ければと思います。



《活動報告》

令和4年度 統括本部電気電子部会と栃木県支部協賛 芳賀・宇都宮 LRT 見学会

栃木県支部幹事 金澤 政和

1.実施日時及び参加者： 11月16日（水）秋晴れの紅葉の下、令和5年夏開業予定の芳賀・宇都宮 LRT（次世代型路面電車）工事現場の見学会を（公社）日本技術士会電気電子部会と栃木県支部とで共同開催した。今回のような栃木県支部と本部との共同見学会は初めての試みであり、本部、支部双方幹事の共同下見会を実施する等いつもの見学会に比べて事前準備に時間をかけた。参加者はコロナ感染症防止の観点から30名に制限した。内訳は本部募集21名、支部募集9名であった。（会員28名、非会員1名、令和3年度合格者1名）

2. 見学場所：宇都宮市 平出車両基地

3. 内容： LRT（Light Railway Transit）車両は 芳賀・宇都宮の恵みの象徴である“雷の稲光”をモチーフに「雷」や「雷を受け豊かに実った稲」をイメージさせる黄色がシンボルカラーの愛称「雷都（ライト）ライン」と呼ばれる。区間は JR 宇都宮駅東口～芳賀・高根沢工業団地間、約15kmである。主な特徴は①ピーク時6分間隔、オフピーク時10分刻みで運行、②停車場は100%バリアフリー、③共通ICカード「totora」利用でどの扉からでも乗り降りできる、④事業運営は宇都宮ライトレール（株）、施設の整備・保有は宇都宮市・芳賀町という「公設型上下分離方式」である。



写真-1 LRT 車両（ライトライン）

芳賀・宇都宮ライトラインは既存の車道に LRT の軌道を設けた新しい方式であり、誰もが自由にスムーズに移動できるまちづくりをコンセプトとして、バスや自家用車と合わせて移動手段の選択肢が増えることにより、利用者の予定に合わせられることを目指している。2016 年、宇都宮市の「軌道運送高度化実施計画」が国に認定され、2018 年、工事が開始された。2022 年 10 月末、多くの関係者の努力によりほぼ全線が開通し 11 月 17 日から試運転が開始された。2023 年 8 月開業予定の日を無事に迎えられる事を祈るばかりである。最後に試運転開始日の前日という多忙な中、本見学会に対応して頂いた宇都宮市建設部 LRT 企画課協同広報室、赤羽室長様、宇都宮ライトレール（株）の職員の方々に深謝致します。



写真-2 見学者集合写真



図-1 LRT 路線図

1. 日時：令和4年11月12日(土)13時40分～15時10分
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 講師：(公社)日本技術士会 茨城県支部 環境・防災活動支援プロジェクトリーダー
有限会社 かにでん 代表取締役 手島 久氏
4. 演題：「技術士の社会貢献 被災地支援編」
5. 参加者：会員(正会員)25名(内、Web受講者10名)
協賛団体1名(株水環境プランニング)
6. 概要：

(公社)日本技術士会 茨城県支部の社会貢献活動は、理科教育支援、環境学習支援、研修会見学会活動、防災活動支援、災害復興支援、中小企業支援を実施している。

講師からは、環境・防災活動支援プロジェクトリーダーとして、全国の被災地に直接出向き、自ら現地で支援活動した時の被災者の思い、被災地の現状(被災地支援活動・被災地の共通課題・防災活動・事前復興計画)を説明いただいた。



写真-1 講師；寺島 久氏

1) 被災地の共通課題(自治体の資質)

地域に即した「地域防災計画」が作成されていない。発災後運用できない「災害廃棄物処理計画」がある。

2) 事前復興計画の課題

- ・個人：相続登記が進んでいないため、発災後の滅失や公費解体申請ができない。
- ・地域：耐震や免振技術の向上で同じ地区で被災状況が異なり、面的復興ができない。
- ・行政：発災後の応急危険度判定や被災度区分判定の整合性が無く、混乱している現状、災害後を語る事が地域の価値を下げると反発、起きてから考える方が多数存在し、声が大きく事前復興計画に着手できない。



写真-2 被災支援の様子
(講演会資料より)

3) 災害救助法の課題

災害廃棄物処理計画を自治体で作成しているが、地域に即した内容が記載されず、災害時には計画書が足かせになっている。被災地の現状とこうした課題も説明されました。技術士として社会貢献する上で最も大切なことは、マーケットインに根ざした活動である。つまり社会の要求事項・社会的価値・自身の専門性と自己研鑽の全てを満たす事で、所謂“三方良し”を貫くことが必要ではないかと考えられる。

近年の相次ぐ大規模災害を教訓に、地域社会から防災支援活動が求められている。このため、技術士の社会貢献の取り組みは期待されていることは間違いのないことから、災害ボランティア活動は技術士 CPD 取得の一つになる。参加者からは、具体的な質問が多く、関心が深いと思われた。講師の手島 久氏が丁寧にお答えられ、記憶に残る講演となった。

以上



写真-3 講演会の様子

令和4年度 栃木県支部 12月期 CPD 研修会

1. 日時：令和4年12月17日(土)13時40分～15時10分
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 講師：公益社団法人 とちぎ建設技術センター
理事長・技術士 田城 均氏
4. 演題：「技術士に期待すること」
5. 参加者：会員(正会員)23名(内、Web受講者4名)
協賛団体2名

栃木県支部幹事 谷口 雅昭



写真-1 田城 均講師

6. 講演概要

講師の田城氏は、栃木県県土整備部へ技術者として入庁し、県土整備部長を最後に退職され、現在は公益社団法人とちぎ建設技術センターの理事長を務められている。長年の技術者の経験にとどまらず、管理職としても重要なポストを歴任された経験から得た知見を紹介いただいた。

県土整備部長として県本会議にも出席され、その際の質疑・質問・答弁や議場でのハプニング、議場での駆け引き、裏話等の一部を紹介いただいた。県政に係る議場での真剣かつ驚きの出来事に大変興味を惹かれるとともに人間味あふれる政治が行われていると感心した。

次に現在の日本の産業会における共通の課題として、(1) 県庁技術者の採用状況 (2) 大学の土木工学科の位置付け (3) 公務員から見る技術者の状況 (4) 技術者の社会的イメージについて、実際の数値やこれまでの組織での経験から、文高理低(理・工学軽視)の風潮がある旨説明があり警鐘を鳴らされた。この様に現在の社会は技術者に対するリスペクト、社会的な認知が広がっていない一方これまでは技術者が「黙々として与えられた仕事を果たす」を美德とし狭い分野に閉じこもっていた点を反省。これからは技術者が社会・国民へ自らの存在意義を広く周知させる活動を技術士・技術士会に期待したいと締められた。



写真-2 講演会の様子

令和4年度 栃木県支部 12月期 CPD 交流会

1. 日時：令和4年12月17日(土)16時～18時
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 参加者：講師1名、会員(正会員)15名、協賛団体2名計18名
4. 交流会内容

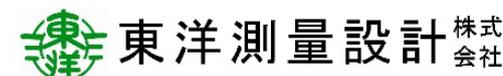
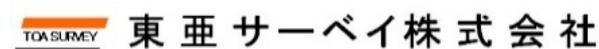
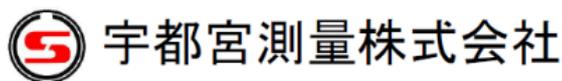
今年は、18名の参加を頂きました。例年に比べると少ない人数でしたが、会場での雰囲気はいつもと変わらず和やかで楽しい交流会でした。コロナ感染の影響が続いているので交流会を開催することが難しい社会環境の中、12月期交流会が開催できたことは嬉しく思います。会員、協賛団体等の繋がりは、交流会を通じて会話をすることが大事であることを実感しました。携帯電話、メール等に加えリモートによる伝達が当たり前になった世の中ですが、人と人が会える空間と時間は貴重な環境と感じました。

栃木県支部幹事 宮下 治



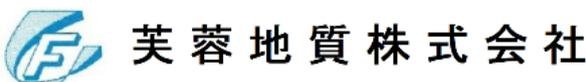
写真-1 交流会の様子

協賛団体（五十音順）



— 栃木県職員退職者の熟練技術者 —
栃木県庁 OB 職員技術士会

栃木県県庁職員技術士会



編集後記

コロナ禍、ウクライナ侵略、気候変動など多様な社会問題は、経済や環境などの悪化もたらせています。今年もこれらの問題に終止符を打たれることなく、しばらくこの状況が続くと思うと不安にあります。これから日本を担う若者や子供たちに少しでも生活しやすく平和な社会になるように、私達世代がやらねばならないことあると思います。今回の投稿で若手社員研修会の記事を見ると若者成長過程はとても楽しみで元気をもらいます。

今年度は、県支部設置 10 周年を迎え知名度の高くなったのか、下野新聞 11 月 30 日の記事で県生産性本部の会長が技術士資格促進の提言がありました。嬉しかった反面、「今頃！」と言うおもいもありました。ネットサーフィンで資格について検索したところ、ここ数年で新しくできた国家資格を発見！こんな資格が「必要な？」と思うものもあり、国が雇用確保、賃上げ、何をして良いかわからない若者などを誘導しているような感じさえします。個人的に国家資格は免許であってその人の本来の実力ではないと考えています。資格取得に向けて勉強することは大切ですが、実力もしっかり身につけてもらいたいものです。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第 18 号 2023 年 1 月発行
 発行者 栃木県支部（支部長 黒須 重富）
 広報委員会：委員長 西谷元則
 副委員長 谷口雅昭、大島晃二
 委員 大岩正通
 事務局 〒321-0954 宇都宮市元今泉 5 丁目 9-7 宇都宮まちづくりセンター内
 Tel：028-678-8600/Fax：028-678-8630